

受粉しなくても果実が肥大する「単為結果性」と「とげなし性」を持つ 「とげなし輝楽」※の栽培指針



品種育成の背景・ニーズ

愛知県のナス産出額は35億円（平成25年）で、県内の農業生産にとってナスは重要な品目です。しかし、生産者の高齢化に伴い、出荷量、農家戸数は年々減少しています。そこで、ナス生産の省力、快適化につながる「とげなし輝楽」を国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構と共同開発しました。「とげなし輝楽」の普及により、高齢化の進む産地の維持発展が期待できます。本指針では、施設栽培におけるポイントを説明します。

品種の特性

- (1) 手間のかかる受粉作業が不要となるため、労働時間を15%削減できます。
- (2) 果実のへた、葉、茎などいずれの部分にも「とげ」の発生はなく、農作業や調理が、「とげ」を気にせず快適にできます。
- (3) 果実は、つやがあって揃いが良く、日焼け果など障害もほとんど発生しないため、秀品率が高まります。
- (4) 日持ちが良く、果肉が緻密で、焼き物や揚げ物料理に適します。

※「とげなし輝楽」は、JAあいち経済連から登録商標「とげなし美茄子」として生産販売されています。

栽培のポイント

台木

- 土壌病害対策や草勢の維持のため、台木の利用（接ぎ木）が必要で、「トナシム」、「アカナス」、「トルバム・ビガー」および「赤虎」などの台木品種が適しています。

栽植密度

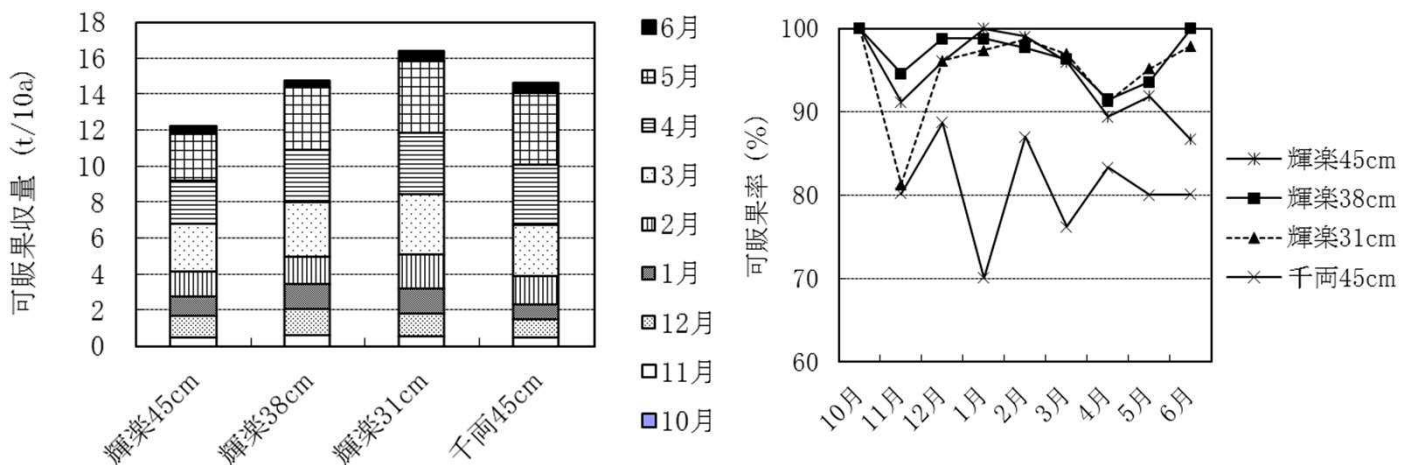
- 莖葉が茂りすぎない特性を活かして、やや密植にすると、収量を増加させることができます。

栽植密度が収量および品質に及ぼす影響

試験区の設定

区の名称	品種	株間 (cm)	栽植密度(株/10 a)
輝楽45cm	とげなし 輝楽	45	1,235
輝楽38cm		38	1,462
輝楽31cm		31	1,792
千両45cm	千両	45	1,235

(畝幅は全て180cmとした)



- 株間を31cmにすると可販果収量が増えますが、栽培管理の作業性を考慮すると、最適な栽植密度は株間38cm、畝幅180cm、10a当たり1,400株（輝楽38cm区）程度です。
- 「とげなし輝楽」の可販果率は、「千両」より高く、栽植密度による影響は見られませんでした。

定植後の管理

- 「千両」に比べ、節間がやや長く、葉も大きくなるため、育苗期および定植後のかん水を控えめにします。
- 高温のハウス内では、単為結果性が不安定になる場合があるので、ホルモン剤の処理などで、第1果を確実に着果させ、初期生育を抑えます。



「とげなし輝楽」栽培の様子

整枝方法1

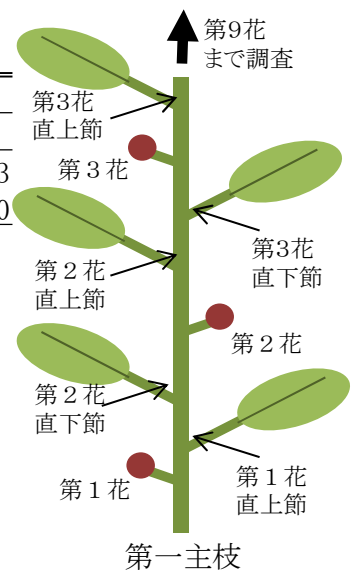
- 整枝は、過度な芽かきや摘葉とならないよう注意してください。

第一主枝における花直上および直下の側枝発生率（単位：％）

品種	第1花		第2花		第3花		第4花		第5花	
	直上	直下	直上	直下	直上	直下	直上	直下	直上	直下
とげなし輝楽	83	100	83	100	50	100	17	100	33	100
千両	100	100	83	100	100	100	100	100	100	100

品種	第6花		第7花		第8花		第9花	
	直下	直上	直下	直上	直下	直上	直下	直上
とげなし輝楽	100	67	100	50	100	33	100	100
千両	100	100	100	83	100	100	100	100

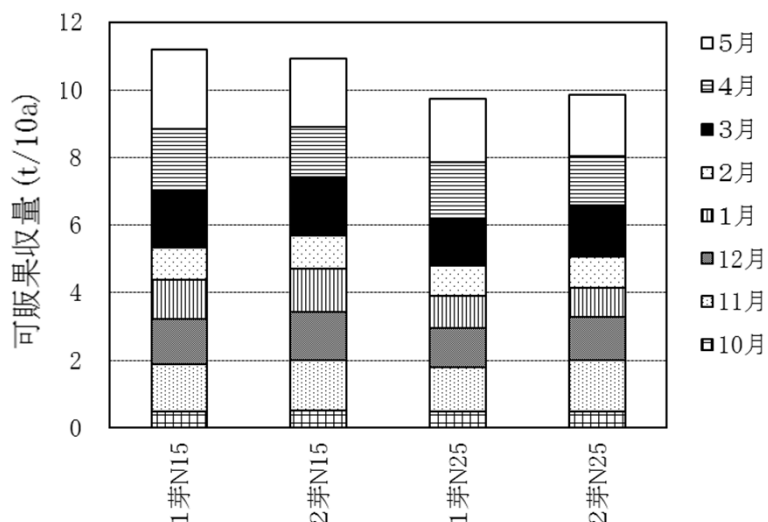
- 「とげなし輝楽」は花直上節の側枝が出にくい傾向があります。



整枝方法2

- 年内は側枝を2芽残して切り戻し、側枝の数を確保すると、初期から春先までの収量が増加します。

整枝方法および追肥量が収量に及ぼす影響

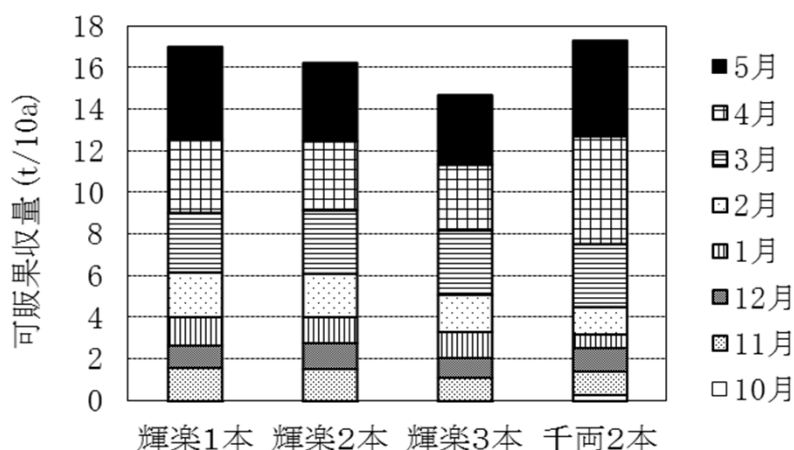


- 2芽残しは、年内は2芽残して切り戻し、それ以降は1芽残して切り戻しました。1芽残しは、全期間1芽残して切り戻しました。
- 2芽残しの収量は、10a当たりの窒素成分（追肥15kgあるいは25kg）にかかわらず、3月までの収量が多い傾向がみられました（2芽N15区、2芽N25区）。

仕立て本数

- 苗数を考慮すると、2本仕立てが適正です。

仕立て本数が可販果収量に及ぼす影響



- いずれの試験区も10a当たりの主枝数が2920本となるように設定しました。
- 3本仕立て（輝楽3本区）では、2月までの可販果収量が少なくなりました。

問い合わせ先

愛知県農業総合試験場園芸研究部野菜研究室

愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1 電話：0561-62-0085（内線332）

FAX：0561-63-0815